

東京都高齢者保健福祉計画策定委員会起草委員会 委員からのご意見及び対応状況

○第1部 「計画の考え方」について

●第1章「計画策定に当たって」及び第2章「東京の高齢者を取り巻く状況」について

No.	発言内容	対応状況	反映箇所	
			部章節	ページ
1	前期計画の進行管理等を行っているのだから、前期計画結果を示したうえで、その評価をし、今期計画に繋げていくという計画の連続性を示すような話を入れるとよいのではないか。	前期計画の進行管理結果を受け、今回の計画を作成し、本計画期間中に進行管理を行い、次期計画に繋げていくという計画の連続性について記載	第1部 第1章 第5節	6
2	掲載されているデータは、東京都のものか全国のものかを明らかにし、できる限り東京都のデータを用いたほうがよいと思う。	東京都のデータ中心に掲載し、できるものについては全国値と比較して掲載	第1部 第2章	13-
3	地域包括ケア計画において、担い手としての高齢者に焦点が当たっており、社会参加で生じるいきがいややりがいに対する意識が弱まっているように危惧する。第1部で高齢者がどのような社会参加活動を行っているのか現状を把握していることを示すデータを示す必要があるのではないか。	高齢者の社会参加状況について、東京の高齢者を取り巻く状況の中で記載	第1部 第2章 第5節	21

●第3章「計画の考え方」について

No.	発言内容	対応状況	反映箇所	
			部章節	ページ
4	唐突に2025年の目指すべき姿が示されるのではなく、なぜこのような形が必要なのかの背景を入れていくべきである。	高齢化が進行している一方で住み慣れた地域で暮らし続けたいという希望が強い状況であるという地域包括ケアシステムの構築の必要性について記載	第1部 第3章 第4節	39
5	東京都の2025年の地域包括ケアシステム（イメージ図）について、人々の基本的な生活という概念を念頭に置いた図にしたほうがよいのではないか。	住まいを中心に置き、そこに様々な状態像の人を置くことにより生活が中心であるというイメージで図を作成	第1部 第3章 第4節	42-43
6	東京都の2025年の地域包括ケアシステム（イメージ図）について、認知症支援について、都の独自の取組である認知症コーディネーターは入れたほうがよいのではないか。	認知症支援コーディネーターをイメージ図の認知症支援の中に追加	第1部 第3章 第4節	42-43
7	ケアマネの立場からすると、色々な機能が連携することによって地域包括ケアシステムが成り立つ。例えば、イメージ図でも認知症支援と介護は繋がっているようにするべきではないか。	地域包括ケアシステムにおいて、それぞれの主体が連携していることを示すため、全てに掛かる連携の輪をイメージ図に入れ、本文にも連携に関する記載を追加	第1部 第3章 第4節	42-44

東京都高齢者保健福祉計画策定委員会起草委員会 委員からのご意見及び対応状況

No.	発言内容	対応状況	反映箇所	
			部章節	ページ
8	地域包括ケアは、東京都内で一様に進めていくということではなく、東京都としては、地域包括ケアシステムの構築について一定の方向を示しつつ、それぞれの地域の実情に応じて段階的に、多様な形で構築に向け進んでいく地域を支援していくということを打ち出せばいいのではないかと。	地域包括ケアシステム構築の部分で、地域包括ケアシステムの構築について一定の方向を示しつつ、それぞれの地域の実情に応じて段階的に、多様な形で構築に向け進んでいく地域を支援していくことを記載	第1部 第3章 第4節	44
9	医療と介護の連携は、形は違えども地域包括ケアシステムの構築の上では基軸となる。それ以外の要素については、関わり方によって地域ごとの多様性が出てくる場所であると思う。			
10	専門職である介護人材については4章で記載するということが、非専門職の人材を含めた人材関係の総論を入れる必要がある。	地域包括ケアシステムの実現のためには、多様な人材が必要であることを記載	第1部 第3章 第4節	44

○第2部 「計画の具体的な展開」

●全般について（事例・コラム）

No.	発言内容	対応状況	反映箇所	
			部章節	ページ
11	コラムは、東京都全体に目を配り、事例等が恣意的に選ばれないよう留意してほしい。	事例・コラムについては、地域に偏りや内容に偏りが無いよう調整	第2部 各章	-
12	現在、地域づくり・介護予防・生活支援については、各地域でフリーハンドで作れるということになっているが、いい事例を挙げてもらえると考えたいきっかけとなるのではないかと。	地域包括ケアシステムの構築の事例については、第2部の各章で事例を挙げ、他の地域の参考になるよう記載	第2部 各章	-

●第1章「介護サービスの基盤整備と円滑・適正な制度運営」について

No.	発言内容	対応状況	反映箇所	
			部章節	ページ
13	地域密着型サービスで事業所が増加しているサービスについて、好事例を紹介してほしい。	定期巡回・随時対応型訪問介護看護・小規模多機能型居宅介護・複合型サービス等の今後増やしていく必要があるサービスについては、サービスができた背景・意義、サービス提供のイメージを記載	第2部 第1章 第2節	100-108
14	ケアマネ支援についてもコラムを載せてほしい。	ケアマネジメントの質の向上について、介護給付適正化の取組の一環として記載	第2部 第1章 第3節	122-123

東京都高齢者保健福祉計画策定委員会起草委員会 委員からのご意見及び対応状況

●第2章「在宅療養の推進」について

No.	発言内容	対応状況	反映箇所	
			部章節	ページ
15	在宅療養の事例（区市町村と医師会が連携した事例と、病院から見た取組事例）を入れるとよいのではないかと。	区市町村における在宅療養の取組について事例を記載 退院支援の強化に関する取組について記載	第2部 第2章 第2節	149-151 156-158
16	在宅療養における地域に根ざした中小病院の役割をもう少しクローズアップしてほしい。	特に、地域医療を担う病院において、患者本位の退院支援に取り組むとともに、退院して在宅生活に戻った患者の病状急変時等の受け入れを行っていくことが重要である旨を記載	第2部 第2章 第2節	156-158
17	訪問看護ステーションへの支援についてこれまでの取組との連続性を踏まえた上で、もう少し詳しく記載すべきではないかと。	訪問看護ステーションについて、第2部第1章と第2章に記載が分かれていたものを第2部第2章第2節に集約	第2部 第2章 第2節	159-161

●第3章「認知症対策の総合的な推進」について

No.	発言内容	対応状況	反映箇所	
			部章節	ページ
18	今後、老老介護や認認介護が増えることは確実だが、そのような世帯はどのくらいあるのか。統計的に取ることは難しいだろうが、東京都の施策として、どのように考えるかは触れるべきである。	認知症対策の推進の現状と課題の中で、介護者自身が高齢である場合や介護者も認知症を発症している場合が増加することが予想されることについて記載	第2部 第3章 第1節	169
19	認知症コーディネーターやアウトリーチが重要なので、図を入れるなど、もう少し記載すべきではないかと。	認知症支援コーディネーター、認知症疾患医療センターの図を掲載予定	第2部 第3章 第2節	176
20	認知症高齢者の行方不明・身元不明対策についてももっと注力するという感じを出すべきではないかと。	現状・課題の箇所に認知症高齢者の行方不明者対策についての社会的関心が高まっていることや、これまでの連絡体制の問題点などを記載するとともに、情報共有の仕組みづくりを推進すること記載	第2部 第3章 第4節	181-183

東京都高齢者保健福祉計画策定委員会起草委員会 委員からのご意見及び対応状況

●第4章「地域を支える介護人材の確保・定着・育成」について

No.	発言内容	対応状況	反映箇所	
			部章節	ページ
21	介護職員は、このままではどこかで臨界点に達してしまう。今までの施策の延長線では追いついていかない。	介護人材対策については、新規の施策も含め、充実した施策展開を行っていくことを記載	第2部 第4章 全般	189-
22	介護人材対策については、ネガティブな表現ではなく、明るいトーンにしてほしい。	介護職の人がやりがいと誇りを持って働いていること、今後発展可能性のある産業であることを記載	第2部 第4章 第2節	195
23	他業種からの転職者も多く、他の仕事が継続できなくなった方を再教育して受け入れている困難さについても書き込んでほしい。	現状・課題に転職者が多いため、職員の育成を充実しなければならないということを記載	第2部 第4章 第2節	195
24	離職率が高いというイメージがあるが、実際には長く勤める人が多い事業所もあり、このような人材を育成できる法人・事業所もあることをコラムでアピールすべきである。	介護現場で働くことで得られるものなど、介護職の魅力についてコラムで記載	第2部 第4章 第2節	199
25	社会福祉士は、ソーシャルワーカーであるので、P193に介護福祉士と並列で並んでいるのには、抵抗があると思う。	介護福祉士と社会福祉士を分けて記載	第2部 第4章 第2節	205
26	認定社会福祉士について、記載してはどうか。	国でも検討中の事項であるため、今後の国の動向を注視していく。	-	-
27	外国人の介護職での就労については、現在検討が進んでいる外国人技能実習制度についての記載を検討してもいいのではないか。	国でも検討中の事項であるため、今後の国の動向を注視していく。	-	-

東京都高齢者保健福祉計画策定委員会起草委員会 委員からのご意見及び対応状況

●第6章「介護予防の推進と支え合う地域づくり」について

No.	発言内容	対応状況	反映箇所	
			部章節	ページ
28	特色のある取組や先駆的な取組をしている地域包括支援センターをコラムで紹介することができればよいのではないかと。	地域包括支援センターの機能強化の取組事例を記載	第2部 第6章 第1節	239
29	多様なサービスに含まれない元気高齢者や要介護者への生活支援への記載もしてほしい。	全高齢者について、生活支援サービスのニーズが高くなっていることについて記載	第2部 第6章 第2節	245
30	専門職だけでなく、非専門職についての人材育成についても触れていく必要がある。(生活支援コーディネーターの育成など)	区市町村における生活支援コーディネーターの適正配置のための支援について記載	第2部 第6章 第2節	245-246
31	支援の場に非専門職が入ってくるのはよいが、東京都として質を担保することについても記載が必要である。	生活支援コーディネーター養成研修などを実施することにより区市町村を支援していくことを記載	第2部 第6章 第2節	245-246
32	予防給付（訪問介護・通所介護）の地域支援事業への移行、生活支援サービス、一般介護予防事業については、区市町村間で温度差がある。東京都として区市町村を支援すべきではないか。生活支援コーディネーターもどのようにして何人くらい養成するかなど、今後3年間の見通しを記載すべきである。	生活支援コーディネーター養成研修事業について記載 (詳細については、今後記載予定)	第2部 第6章 第2節	245-246
33	総合事業の関係で取組みが進んでるところを事例として掲載すると他の区市町村の参考になるのではないかと。	社会参加推進事業（登録ボランティア）や社会福祉協議会やシルバー人材センターによる生活支援サービスの充実に向けた取組についてなど、総合事業の実施に当たっても参考となるコラムを記載	第2部 第6章 第2節	247-249
34	女性が働きやすい職場でもあるのでワークライフバランスや子育て支援についても、関係部署と連携をとって記載していく必要がある。	家族や地域が高齢者を支えることができる環境づくりについて記載	第2部 第6章 第4節	267-271
35	今後福祉問題を考えていく際には、地域という視点は欠かせない。家族支援も含めて、地域で考えていく必要がある。			
36	介護で言うワークライフバランスは斬新な考え方なので、具体的に何を言っているのか整理した上で計画に入れるべきである。			
37	ワークライフバランスを実現するためには、産業の分野だけでなく、働き続けることができるようにするための保育や介護等のサービスの提供と一度やめたとしても再就職できるような条件の整備や緩やかなつながりの維持が必要である。			

東京都高齢者保健福祉計画策定委員会起草委員会 委員からのご意見及び対応状況

○第3部 「資料」

No.	発言内容	対応状況	反映箇所	
			部章節	ページ
37	東京都は、島しょもあり、エリアごとに特徴があるため、圏域ごとの違いがわかるようなデータを出していくのもよいのではないか。	各圏域の特徴を比較できる地図を掲載	第3部 第2章	328-330